なんでもインフォ 2012.6

発 行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１−23　Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

釜石の鐵の歴史について

はじめに

去る５月 10 日、新日本製鐵株式会社より、釜石製鉄所の昨年３月の地震･津波による被害からの完全復旧（最後は輸出向け出荷設備の復旧）が報告されました。釜石の産業は製鐵だけではないとはいえ、釜石の産業の大きな要素であることは間違いないと思います。今後の発展の祈りも込めて、釜石での鐵の歴史について振り返ってみました。

大島高任という人について

釜石の鐵の歴史において、キーパーソンとして大島高任という人がいます。1826 年に盛岡に生まれ、蘭学、西洋砲術などを修め、水戸藩から西洋式大砲を鋳造することを目的とした反射炉築造に招かれました。当時、1853 年には浦賀にペリーが黒船で来訪している時期でした。

水戸の反射炉は操業には成功したものの、砂鉄を材料にしたためか大砲として十分な強度は得られなかったようで、良質の鉄鉱石を得られる立地が求められることになりました。そこで、大島高任が白羽の矢を当てたのが、釜石でした。



大島高任の像(釜石駅前)

釜石での製鐵の始まり

大島高任が釜石を選定したのは、次の理由とされています。

・釜石鉱山からの良質の鉄鉱石が得られる。
・鐵を溶かす火力を得るための木材が豊富。
・風を送るフイゴを回すのに利用する水力がある。

釜石で大島高任が最初に築造した高炉の場所は大橋で、今の陸中大橋駅の北西に当たります。現在では記念碑が旧釜石鉱山㈱事務所（現在は展示室、地震により閉館中）横にあり、周辺施設跡には一部看板などが設置されていますが、当時をしのぶ構造物は残念ながら見られません。



大橋高炉の記念碑

背後には、当時、鉄鉱石などを供給した釜石鉱山がそびえていましたが、1993 年に大規模な鉄鉱石採掘は終掘となりました。

大橋高炉は 1857 年 12 月 1 日（鉄の記念日）に初出銑に成功し、日本で初めて鉄鉱石を用いた安定した銑鉄を生産できる高炉となりました。大橋高炉の成功を受け、近隣に橋野高炉、栗林高炉、砂子渡高炉、佐比内高炉（遠野）が作られていきました。橋野高炉跡は、県道３５号の笛吹峠の東側に公園のように整備されています。



橋野高炉跡（第２高炉）
（他に第１，３高炉跡がある）

さらに、製鐵のために日本で３番目の鉄道も設備されました。そのレンガ造りのアーチ橋が今も残っており、碑によりますと、1880 年の完成となっています。



鉄道用アーチ橋（旧小川小学校前）

その後の歩み

このように始まった釜石での製鐵は、官営時代や田中製鉄（田中鉱山）、三井製鉄（三井鉱山）、日本製鉄、富士製鉄などの民営時代を経て、1970 年に八幡製鉄と合併し新日本製鐵の時代になりました。以前、遠野で見た橋の部材のレールに FUJI（富士製鉄製）の刻印を見つけ、なんとなく嬉しくなりました。1989 年には時の流れに押されて釜石の高炉が廃止されましたが、線材に特化した工場として動いています。

このように、多くの人の思いを背負った工場が昨年３月の地震・津波の被害から完全復旧しました。これは、釜石、そして沿岸地域全体の復興の力強い一歩の気がしています。時代が違いますので同じ姿ではないでしょうが新しい形での発展がなされることを祈願し、また、少しでもその力になれればと思っています。



FUJI の刻印のレール

参考文献：鉄のふるさと（釜石商工会議所）、鉄の歴史館概要（釜石市）、鉄路歴程（釜石地方振興局）ほか

株式会社 昭和土木設計の紹介
弊社は，道路・河川・橋梁等の計画・設計，GIS，IT ソリューション等の業務を行っております．
”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください．

配布者
作成者：コンサルタント事業部